

令和3(2021)年度の活動実績について

令和3年度は、例年のプログラムに取り組みながら、「第9回世界水フォーラム」(セネガル、2022年3月)への参画、並びに、15年ぶりの国内開催となる「第4回アジア・太平洋水サミット」(熊本市、2022年4月)の開催準備を推進しました。

4つの活動の柱

政策提言

日本の叡智の世界への発信

草の根活動の支援

人材育成・啓発

認定NPO法人 日本水フォーラム





4th Asia-Pacific Water Summit
Kumamoto Japan 2020

第4回アジア・太平洋水サミット開催概要

○ 開催日程: 2022年4月23日（土）-24日（日）

○ 開催地: 日本（熊本県熊本市）

○ テーマ:

**Water for Sustainable Development
- Best Practices and the Next Generation -
持続可能な発展のための水～実践と継承～**

サミットには、**日本を含め、アジア・太平洋地域から30か国の首脳級及び閣僚級が参加し、オンラインによる参加も含め、のべ約5,500人が参加しました。**

◇参加国(オンライン・ビデオメッセージ含む)

首脳級: カンボジア、ツバル、ラオス、ウズベキスタン、ブータン、ベトナム、タジキスタン、インドネシア、フィリピン、ナウル、スリランカ、キルギス、トルクメニスタン、バングラデシュ、タイ、ニウエ、マーシャル諸島、日本

閣僚級: ブルネイ、インド、インドネシア、ラオス、ニウエ、フィリピン、カンボジア、モルディブ、タジキスタン、ウズベキスタン、キルギス、シンガポール、アルメニア、パラオ、フィジー、アゼルバイジャン、モンゴル、ネパール、韓国、ソロモン諸島、日本

◆開会式

天皇皇后両陛下にオンラインによるご臨席を賜り、また会場の熊本城ホールには海外からの来賓を含め約700名が出席して開会式が行われました。



天皇皇后両陛下ご臨席



開会挨拶：森APWF会長



ご挨拶：岸田内閣総理大臣



ユース代表による開会宣言

◆天皇皇后両陛下オンライン行幸啓

開会式では、天皇陛下による「人の心と水-信仰の中の水に触れる-」と題した記念講演が行われました。開催地熊本の自然や水資源の紹介、また世界各国でこれまでに陛下自ら撮影された写真などを交えながら、水と人々とのつながりについてご講演されました。

また、ユース世代とのオンラインでのご懇談も行われました。ユース水フォーラム・九州に動画を応募した九州地方の高校の中から、3校が選ばれ、天皇皇后両陛下とのオンラインご懇談に参加しました。



天皇陛下による記念講演



天皇皇后両陛下とのオンラインご懇談

◆首脳級会合

首脳級会合には、オンラインやビデオメッセージでの参加も併せて18か国(日本含む)の参加があり、各国の水課題やそれに向けた取組が共有され、解決に向けたイニシアティブについて発信されるとともに、サミットの成果文書となる「熊本宣言文書」が採択されました。

また、岸田首相から「熊本水イニシアティブ」が発表され、アジア太平洋地域における水を巡る社会課題に対し、「質の高いインフラの整備」に向けて今後5年間で約5,000億円の支援の実施が表明されました。



主脳級会合の様子



第4回アジア・太平洋水サミット (APWS) - 熊本宣言

2022年4月23日、第4回APWSにてアジア・太平洋地域の18か国 の政府首脳に(HSG)による水問題の解決と質の高い社会への変革に向けた共同決意声明・宣言

- 水の重要性和意義を再認識する。
- 水分野におけるハード・ソフトを統合した質の高いインフラ整備を強化する。
- 健全な水循環を取り戻すことにより、災害に備え、多角的なSDGsを達成し、国際河川での協力を強化する。

取り組みの加速に向けて

- ・ 水に関わる多くの機関・市民社会が分野と世代を超えて連携を行う。
- ・ 各流域の協力体制を強化し、水問題を解決し、繁栄を分かち合ってきた良き事例を共有する。
- ・ 成長に貢献するため、水投資を増やす。
- ・ 各流域において投資を動員する。
- ・ 地域の自然環境、地理的特性や歴史的経過を尊重し、発展段階に応じた水問題解決のため、科学技術の提供を望む。
- ・ 次世代の水の専門家への教育や能力強化を行う。

……> 日本政府より発表された熊本水イニシアティブを評価し、支持する。

第4回 APWS テーマ

持続可能な発展のための水 ～ 実践と継承～



熊本宣言の概要



Japan Water Forum
日本水フォーラム

アジア・太平洋水フォーラム

日本水フォーラムが事務局を務める「アジア・太平洋水フォーラム (Asia-Pacific Water Forum: APWF)」は、アジア太平洋地域における水問題の解決に向けた具体的議論を興し、地域連携、国際協調を深め、この地域が取り組むべき課題解決までの方向性を指し示すことを目的として、日本が主導して設立した国際ネットワーク組織です。

○ 第4回アジア・太平洋水サミット開催の準備を通じた活動

テーマ	主な活動内容
健全な水循環 リード機関: ユネスコ アジア太平洋地域科学局	・水循環管理の視点からアジア太平洋地域のSDGs実施評価をまとめた事例の執筆 ・ユネスコIHPアジア太平洋地域運営委員会へのオンライン参加 (2021年11月) など
ガバナンスと包摂的開発 リード機関: 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP)、世界水パートナーシップ (GWP)	・アジア太平洋地域のSDG6 と COVID-19 に関する政策レポートのレビュー、出版 ・2023「国連水の行動10年中間レビュー会議」 アジア・太平洋地域の進捗レビュー など
ファイナンス リード機関: アジア開発銀行 (ADB)	・4 th APWS「水と災害・気候変動」分科会ファイナンスプレセッションの開催 など

○ スtockホルム世界水週間2021 アジアフォーカスセッション

ストックホルム世界水週間2021オンラインにおいて、2021のテーマ「レジリエンスを早急に構築する」に沿い、アジア・太平洋地域の事例を共有しつつ、課題解決に資する提言を発信

水循環管理 8/24	共催機関: APWF、UNESCO太平洋地域科学局、 UNESCAP、国際水管理研究所 (IWMI)、日本サニテーションコンソーシアム、内閣府水循環政策本部事務局、韓国水フォーラム	アジアフォーカス: 強靱で平等な社会構築のための水循環管理
ガバナンス 8/25	共催機関: ・APWF、GWP本部、GWP東南アジア、ICHARM、JICA、ADB、OECD、水インテグリティネットワーク、IUCN アジア	アジアフォーカス: 持続可能な発展の深化に向けた包摂的水ガバナンスの加速化
ファイナンス 8/23	共催機関: ・APWF、ADB、OECD、Alliance for Global Water Adaptation (AGWA)、Water.org	アジア太平洋地域における革新的な水ファイナンスの実践

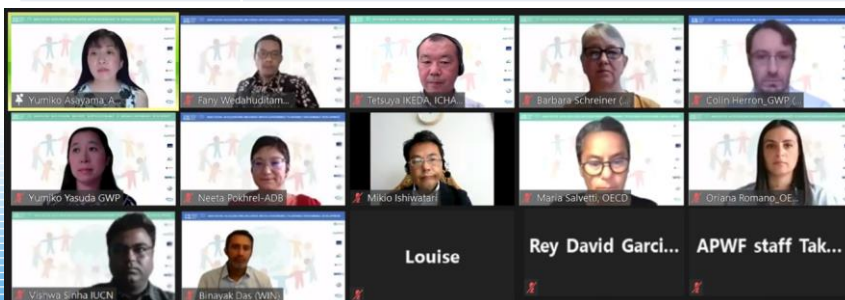
○ 第9回世界水フォーラムにおけるセッション開催

アクショングループリーダーとして、「アジアとアフリカの持続可能で、強靱で、包摂的な水資源管理に向けた多様な利害関係者パートナーシップの地域化」と題したセッションを開催。インドネシア政府国家開発企画庁水資源・灌漑局長、中央アフリカ政府 エネルギー・水資源局長、アラル海救済国際基金議長、アフリカ開発銀行、IWMI、OECD、インド水基金会長をスピーカーに迎え、パネルディスカッションを開催

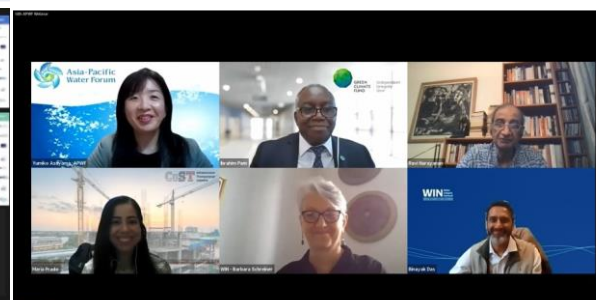
○ APWFウェビナーシリーズの実施

日本を含むアジア太平洋地域49カ国の政府職員、大使館職員及び関係者などを対象に、水分野における国際議論・取組みなどに関するオンラインセミナー（ウェビナー）シリーズを実施。第4回APWS開催の直前となる2022年2月からは、第4回APWSで開催する分科会の中から、「水と災害・気候変動」セッションに関して、主催・共催をする国内・国際機関と事前セッションを開催し、科学技術、ガバナンス、ファイナンスの観点から、アジア太平洋地域の質の高い成長の実現に向けた提言のまとめにも活かした。

開催日	スピーカー機関名	ウェビナーテーマ
2021年4月15日	ウォーター・スチュワードシップ・アジア・パシフィック	ウォーター・スチュワードシップを通じた持続可能な水管理への産業界の参加
2021年5月21日	・ウォーター インテグリティ ネットワーク ・緑の気候基金独立インテグリティユニット ・インフラストラクチャーの透明性イニシアティブ	水セクターのインテグリティ（健全性と透明性）の強化：アジア・太平洋地域の水の安全保障を高めていくうえでの重要性
2021年6月30日	・国際水管理研究所（IWMI） Arghyam（NGO）	地下水・見えないものを可視化する
2021年11月11日	国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）	コロナウィルス感染症禍におけるアジア太平洋地域のSDG6進捗の促進
2022年2月15日	ICHARM、海洋研究開発機構、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、ネパール水文・気象局、スリランカ灌漑局、中国水資源・水力調査研究所、IWMI、統合山岳開発国際センター（ICIMOD）、GWP	水と災害管理及び気候変動対策に係るエンドトゥエンドアプローチ：科学技術 （第4回APWS分科会「水と災害・気候変動」 科学技術 プレセッションとして開催）
2022年2月18日	・ICHARM、HELP事務局、バンラデッシュ自然資源研究センター、ラオス環境資源省、ベトナム水パートナーシップ、EC-FASウズベキスタン事務局、IUCN アジア、GWP東南アジア、UN-HABITAT、OECD	水と災害管理及び気候変動対策に係るエンドトゥエンドアプローチ：ガバナンス 第4回APWS分科会「水と災害・気候変動」ガバナンスプレセッションとして開催
2022年3月2日	・GWP本部、GWP東南アジア、ADB、UNEP-DHI水・環境センター、フィリピン国家水資源評議会、ジョージア環境保護・農業省	アジア太平洋地域における統合水資源管理（IWRM）の進展の加速化
2022年3月30日	・ICHARM 積水化学、KPMGあずさサステナビリティ、ADB、インド・コルカタ環境改善投資プログラム	水と災害管理及び気候変動対策に係るエンドトゥエンドアプローチ：ファイナンス （第4回APWS「水と災害・気候変動」ファイナンスプレセッションとして開催）



ストックホルム世界水週間 アジアフォーカス：ガバナンスのスピーカー



水インテグリティに関するAPWFウェビナー



水と災害 科学技術プレセッション

日本の叡智の世界への発信

第9回世界水フォーラム

SDGs等の国際目標達成に向けた重要なマイルストーンの一つとして、多様な知識を共有すると共に、政治・社会・経済各分野の意思決定者の水問題に対する意識喚起や、国際目標達成に向けた協調行動を促す場とすべく開催

開催概要

- 日時：2022年3月21日（月）-26日（土）
- 開催地：セネガル・ダカール
- 主催：世界水会議（WWC）、
セネガル共和国政府、ダカール市
- テーマ：平和と発展のための水の安全保障
Water Security for Peace and Development
- URL: <https://www.worldwaterforum.org/>
- ✓ サブサハラ・アフリカで初開催

ステークホルダーによる「ダカール宣言」を採択

- 平和と発展に向けた水の安全保障と衛生への約束 -

- ◆ すべての人に水と衛生の権利を保障する
- ◆ 資源利用と強靱性を確かなものにする
- ◆ 十分な資金調達を実現する
- ◆ 包摂的なガバナンスを実現する
- ◆ 協力を促進する

→2023年国連水会議への貢献として提出

開会式では天皇陛下がビデオメッセージを寄せられた

<https://www.youtube.com/watch?v=Walevjq6Dxc>

(SankeiNews)



上図) 参加御礼フライヤーより抜粋



日本の叡智の世界への発信

第9回世界水フォーラム

テーマ別議論への参画、日本からの発信：「気候変動適応」「協力」

開催日

セッション名

3月21日(月)

IF3.「データと知識に基づく解決策を通じたレジリエンスの構築：水関連リスクの特定、モニタリング、早期警戒、評価」

主催 中国水資源水力調査研究所(リード組織)、日本水フォーラム、国際流域組織ネットワーク(INBO)

3月23日(水)

3F2.「アジアとアフリカの持続可能で、強靱で、包摂的な水資源管理に向けた多様な利害関係者パートナーシップの地域化」

主催 アジア・太平洋水フォーラム(APWF)(事務局：日本水フォーラム(リード組織))

3月24日(木)

IF2.「戦略・計画、社会的能力向上を通じた、気候変動、危機、極端な水災害に対する回復力と適応力の向上」

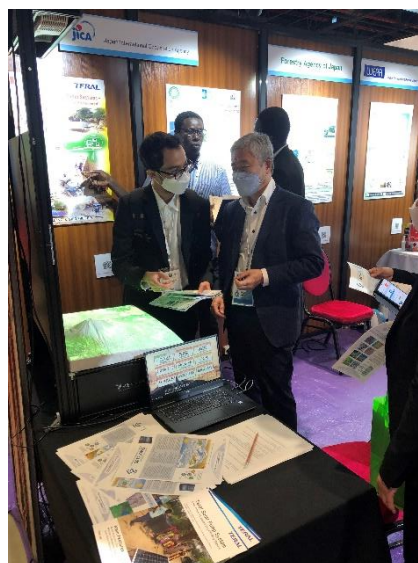
主催 日本水フォーラム(リード組織)、国際流域組織ネットワーク(INBO)、国連砂漠化対処条約(UNCCD)、The Borders Institute Africa



JAPAN Boothの出展

- 展示会にて、官民一体となって我が国の取組みを情報発信
- 企画調整：日本水フォーラム

省庁等：	内閣官房 水循環政策本部事務局、国土交通省、林野庁、環境省、JICAセネガル事務所
公益団体等	地球環境戦略研究機関(IGES)、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)、日本水フォーラム、ユース水フォーラム・九州
企業	(株)トーテツ、(株)地圏環境テクノロジー



日本の叡智の世界への発信



ノーザン・ウォーター・ネットワーク NoWNET:

ネットワークメンバー会合、及び、ストックホルム世界水週間2021にて、
「自然を基盤とした解決策」に関するオンラインセッションの開催

7月1日に、オンラインで、NoWNETネットワーク会合を開催。各NoWNETメンバー機関の組織概要、活動概要、テーマ的関心の紹介に加え、各機関が抱える課題に対するネットワーク間の経験や教訓を共有し合い、ネットワーク間の連携強化につながった。

ストックホルム世界水週間2021の会期中には、8月23日に、「パートナーとしての自然:世界規模で自然を基盤とした解決策を実施する」と題したオンラインセッションを開催。

本セッションでは、デンマークや、フィンランド、オランダ、日本、韓国の都市における洪水管理として、自然を活かした解決策適用までの道筋、及び、適用して得られた教訓を共有。各国の事例共有を通じて、政治的、財政的、景観的、市民社会的な環境の違いが、都市部の洪水リスクに対処するためのNBSの推進に影響するかどうか、またどのように影響するかを検証し、各々の障壁を克服していくために必要なことを議論。朝山由美子JWFマネージャーが、このセッションの全体コーディネーターを務めた。

本セッションからの提言:

1. NBSの複数のメリットを制度的に主流化する。
2. NBSは費用対効果が高く、(都市の)持続可能性を実現するものである。
3. データの共有とモデル化が必要。
4. 洪水被害の要因に対処するためには、都市部以外にも目を向ける必要がある。

本オンラインセッションは、大変好評で満員、キャンセル待ちの聴講者が続出した。NoWNETメンバー国のNBSに関する話題に関する関心の高さを実感。

- セッション動画: https://www.youtube.com/watch?v=r6JkI2K_ejc
- オンラインセッションページ:
<https://www.worldwaterweek.org/event/9624-nature-as-a-partner-implementing-nature-based-solutions-globally>
- セッション開催報告書:日本語版
<https://www.waterforum.jp/news/18600/>

NoWNET とは

NoWNETは、先進国9カ国(フランス、オランダ、スイス、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、ポルトガル、韓国、日本)の水パートナーシップ機関(NPO)と、国際的な水の議論をけん引する2つの機関(世界水会議(WWC)、世界水パートナーシップ(GWP))で構成されているナレッジ・ネットワークである。2003年に日本で世界水フォーラムが開催された際、WWCとGWP、第3回世界水フォーラム組織委員会によりNoWNETが設立されて以来、日本水フォーラムが事務局を務めている。

*NoWNET構成メンバー (11機関)

フランス水パートナーシップ、オランダ水パートナーシップ、スイス水パートナーシップ、デンマーク水フォーラム、スウェーデン水ハウス、フィンランド水フォーラム、ポルトガル水パートナーシップ、韓国水フォーラム、日本水フォーラム、WWC、GWP



草の根活動の支援

第9回世界水フォーラム

閉会式で「京都世界水大賞2022」授賞式を実施（3月25日）



プラガッティによる太陽光を利用した、かんがい農業推進と安全な飲み水の確保のためのプロジェクトを、「伝統と革新の調和」と「文化とコミュニティに寄与し持続可能な活動」として高く評価。自然エネルギー活用により、水問題解決のみならず、環境負荷削減にも寄与



京都世界水大賞2022

主催：京都市、日本水フォーラム、WWC

大賞受賞団体：プラガッティ（インド、南オリッサ州コラプット地区）、賞金200万円

ゴールドスポンサー：株式会社CB

スポンサー：株式会社島津製作所、株式会社東京建設コンサルタント、オルガノ株式会社、五洋建設株式会社、川合鑿泉工業株式会社（順不同）

受賞団体の事業地の様子

草の根活動の支援

(1) JWFファンド2021

案件公募、審査を経て、途上国5カ国5件のプロジェクトを助成

- 現地の各実施団体が、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対策を講じながら、飲み水や衛生の改善プロジェクトを展開
- 応募団体を対象に、COVID-19に関するアンケートを実施
- 感染症対策に欠かせない「手洗い」の普及・習慣化に向けた最も大きな課題が、衛生教育の不足であることを確認
- 対象プロジェクトの進捗把握を適宜実施
- 女性や子供達などを中心に衛生的な水にアプローチ可能な環境整備を実施
- 地元住民を対象とした啓発活動の展開や、地域コミュニティを巻き込んだ水管理体制構築への取り組み実施



ウガンダ（雨水貯留槽設置と少女達の生活支援）

(2) 京都世界水大賞2022（前頁参照）

(3) 4℃アクアプログラム

女性や子供のための戸別雨水貯水プロジェクト実施（バングラデシュ）

アクアプログラム2020が完了し、計50世帯に雨水貯留タンクを設置。

現在は、当事業地での実施として5年目となる、アクアプログラム2021を実施中



4℃アクアプログラム2020
受益世帯の家族

(4) ダルビッシュ 有 水基金

第14号プロジェクト完了・第15号実施

- パキスタンでの第14号プロジェクトが完了
（水道設備老朽化の修繕と地方自治体と住民の連携の支援）
- ネパールでの第15号プロジェクトを実施中
（ギャノダヤ中学校における水と衛生促進プロジェクト）



（14号）設置した手洗い器の前で
衛生講習を受ける住民

人材育成・啓発

「ユース水フォーラム」公式ウェブサイト
<https://waterforum.jp/ywf/>



(1) ユース水フォーラム

新規事業初年度にあたる2021年度は、「ユース水フォーラム・九州」を主体とし、動画募集と4th APWS参加を推進した

- 高校生世代の皆さんに、短編動画(英語)を制作し応募頂いた。
- 応募30作品を、ウェブサイトやSNSで、インターネット上で公開・発信
- 第9回世界水フォーラムで応募作品を展示(3頁参照)
- 第4回アジア・太平洋水サミット(4th APWS)の各種プログラムに参画



4th APWSユースによる開始宣言



4th APWS 天皇皇后両陛下とオンラインご懇談



4th APWS 現地展示会場
国際機関代表者らとセッション

(2) 第45回「水の日・水の週間」

- 水の週間実行委員会参画
- 「水の循環とわたしたち～水のミュージアムオンライン～」啓発動画出展

(3) 打ち水大作戦2021 事務局活動 強化月間7月22日(大暑)～8月23日(処暑)

- 前年度に続き、新型コロナウイルス感染対策に配慮した『“令和版”打ち水の作法』に即した、打ち水の実践を呼びかけた
- 主なキャンペーン「毎日打ち水」「みんなで一日中、打ち水」「お店で開店打ち水」「打ち水俳句募集」
- 期間中、全国で推定703万人以上が参加

令和4年度活動予定(5月～3月)

政策提言

- 「第4回アジア・太平洋水サミット」開催成果の発信
- APWFウェビナーの実施
- APWF主要テーマ別ワーキンググループの取組
- ドウシャンベ会議(6月)、ストックホルム世界水週間(8月)、国連水会議(3月)等への参画
- 水循環基本法フォローアップ委員会への参画
- 政策提言に係る情報収集・分析・発信

草の根活動の支援

- JWFファンド2022:草の根活動の公募～実施(5件)、過去プロジェクトのフォローアップ
- 京都世界水大賞2024(仮名):選定準備開始(2024年に第10回世界水フォーラムがインドネシアにて開催予定)
- 4℃アクアプログラム:プロジェクト実施(バングラデシュ)
- ダルビッシュ 有 水基金:第15号(ネパール)、第16号(実施地未定)プロジェクト実施
- 国際会議での事例共有

日本の叡智の世界への発信

- NoWNETを通じた情報収集・共有・発信
- 第10回世界水フォーラムに向けた準備
- 日本の水関連技術のPR

人材育成・啓発

- ユース水フォーラム2022実施
- 第46回「水の日」「水の週間」への参画
- 打ち水大作戦2022、本部事務局活動

